

10  
ダビデ  
聖徒伝 94

# 「主の平和を 待ち望め」

サムエル記二4～6章

エルサレムへ上るダビデ

# アウトライン

0. イントロダクション

I. イシュ・ボシェテの暗殺 4章

II. エルサレム攻略 5章

III. エルサレムに上る 6章

朗読：歴代誌第一16:8～36

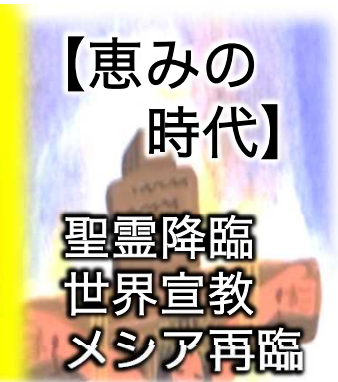
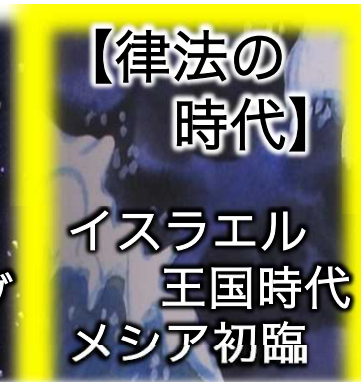
IV. まとめと適用

エルサレムとは？

来るべき神の都を覚えよう



オリーブ山とエルサレム



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

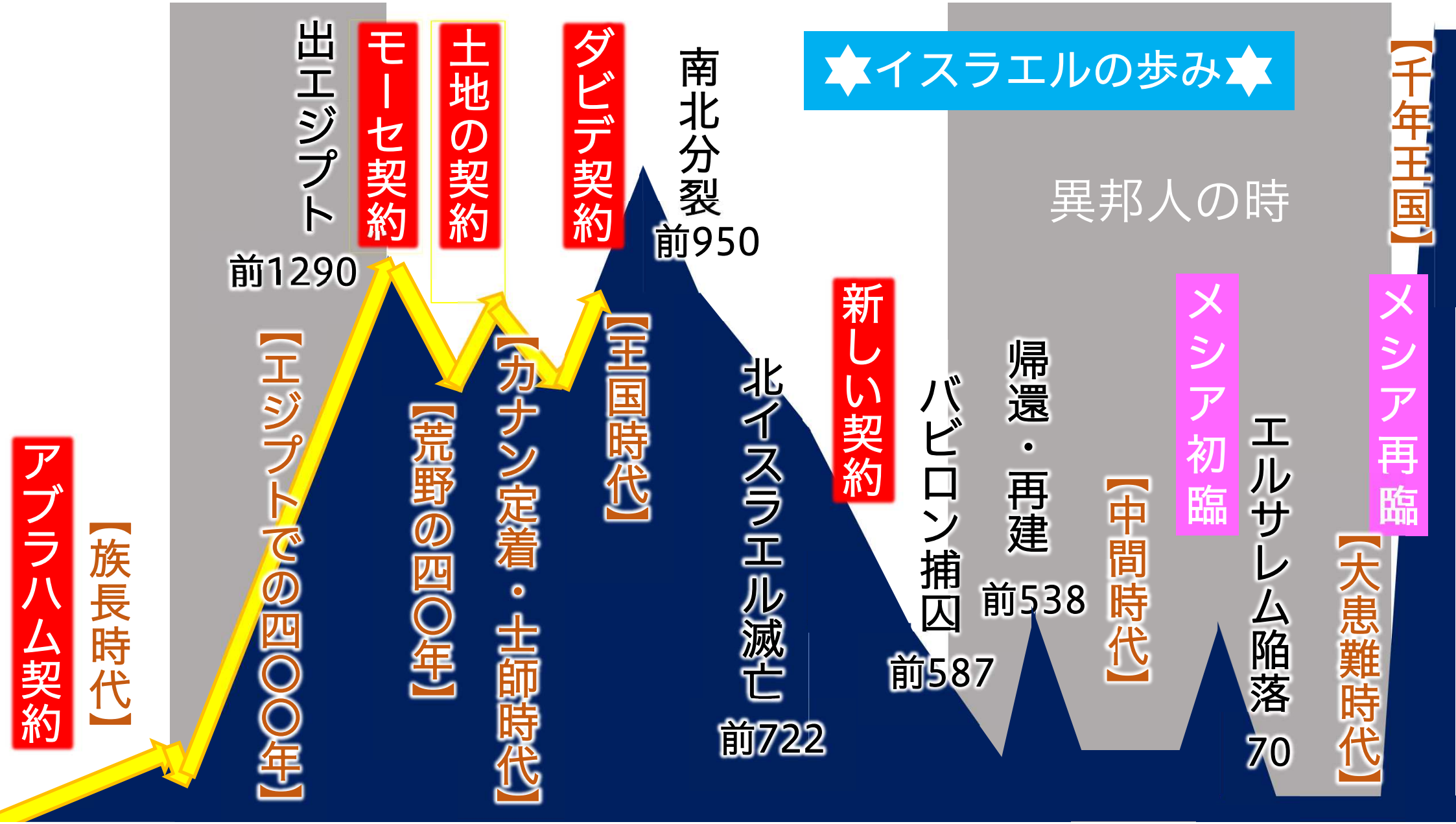
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

【王国時代】

ダビデ契約

【カナン定着・士師時代】

土地の契約

【荒野の四〇年】

モーセ契約

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト 前1290

【族長時代】

アブラハム契約

サムエル記 第二

ダビデ王の治世の正と負

ユダの王	1 : 1~27	サウルとヨナタンの死
	2 : 1~4:12	ユダの王に即位
イスラエルの王	5:1~25	エルサレム遷都 全イスラエルの王に
	6:1~25	神の箱が都に上る
	7:1~29	<b>ダビデ契約</b> の締結
	8:1~9:11	ダビデの治世 勢力の拡大・義と憐れみ
失墜する 王の権威	10:1~12:31	アンモンとの戦い ダビデの過ちと悔い改め
	13:1~14:33	悪化する家族問題
	15:1~18:32	アブサロムの謀反 ダビデの都落ち
	19:1~20:26	ダビデの帰還
追記	21:1~22	サウルの氏族の末路・戦士ダビデの引退
	22:1~51	ダビデの歌
	23:1~39	ダビデの遺言 勇士たちの記録
	24:1~25	人口調査 ダビデの罪と罰

## 【ダビデとサウルの足取り】 サムエル記一11～二3章

■ 初代の王サウルは主に背き、神はダビデに油を注いだ。ダビデはサウルに命を狙われ、逃亡生活が続いた。

■ サウルは、ペリシテとの戦いで凄惨な最後を遂げた。ダビデは、哀歌を歌い、サウル王の死を悼んだ。

■ ユダ族の王となったダビデは、サウルの子イシュ・ボシェテを王に立てたイスラエルと衝突した。

■ イスラエルの将軍アブネルは、ダビデに和解を申し出、各部族への説得を進めていたさなか、ダビデ軍の将軍ヨアブに殺された。





# I. イシュ・ボシェテの暗殺

サムエルII 4章

荒野の夕日

## 【ベエロテ人の二人の隊長】 Ⅱ サムエル4:1～2

サウルの子イシュ・ボシェテは、アブネルがヘブロンで死んだことを聞いて、気力を失った。全イスラエルもおじ惑った。

サウルの子イシュ・ボシェテのもとに、二人の略奪隊の隊長がいた。一人の名は**バアナ**、もう一人の名は**レカブ**とあって、二人ともベニヤミン族のベエロテ人リンモンの息子であった。**ベエロテ\***もベニヤミンに属すると見なされていたのである。

**ベエロテ人\***はギタイムに逃げて、そこで寄留者となった。今日もそうである。

\*この事件後、一族は国外に逃れることとなった。



マハナイム近郊



## 【メフィボシェテ】 II サムエル4:4

さて、サウルの子ヨナタンに、足の不自由な息子が一人いた。その子が五歳のときのこと、サウルとヨナタンの悲報がイズレエルからもたらされ、彼の乳母は彼を抱いて逃げた。そのとき、あまりに急いで逃げたので、彼を落としてしまった。そのために足の萎えた者になったのであった。彼の名は**メフィボシェテ\***といった。

\*ヨナタンとの約束ゆえ、後にダビデの憐れみを受けて食卓を共にすることに。

➡イシュ・ボシェテの次に**王位継承権**のある者。



## 【暗殺】 II サムエル4:5~7

さて、ベエロテ人リンモンの子のレカブとバアナが、日盛りのころ、イシュ・ボシェテの家にやって来た。そのとき、イシュ・ボシェテは昼寝をしていた。

彼らはやって来て、小麦を扱う者として家の中まで入り込み、彼の下腹を突いた。レカブとその兄弟バアナは逃げた。

すなわち、彼らが家に入ったとき、イシュ・ボシェテが寝室の寝床で寝ていたので、彼らは彼を突き殺して首をはねた。彼らはその首を持って、一晩中アラバへの道を歩いて行った。



## 【暗殺者たちの来訪】 Ⅱ サムエル4:8

彼らはイシュ・ボシェテの首をヘブロンのだビデのもとに持って来て、王に言った。「ご覧ください。これは、あなたのいのちを狙っていたあなたの敵、サウルの子イシュ・ボシェテの首です。

【主】は今日、わが主、王のために、サウルとその子孫に復讐されたのです。」

■ 同族のベニヤミンから出たサウル王の子を殺し、  
だビデに取り入ろうとしたレカブとバアサ。

➡ 絆の強いベニヤミン族にこんな者たちが!!



## 【ダビデの返答】 II サムエル4:9～10

ダビデは、ベエロテ人リンモンの子レカブとその兄弟バアナに答えて言った。

「【主】は生きておられる。主は私のたましいを、あらゆる苦難から贖い出してくださった\*。  
かつて私に『ご覧ください。サウルは死にました』と告げて、自分では良い知らせをもたらしたつもりでいた者\*を、私は捕らえて、ツィクラグで殺した。それが、その良い知らせへの報いであった。」

\*神の御前で御心に適った裁きを下すという宣告。

\*王にとどめを刺したと告げ、効を得ようとした。



ヘブロン近郊

## 【ダビデの裁き】 IIサムエル4:1112

「まして、この悪者どもが、一人の正しい人を家の中で、しかも寝床の上で殺したとなれば、私は今、彼の血の責任をおまえたちに問い、この地からおまえたちを除き去らずにいられようか。」

ダビデが命じたので、若い者たちは彼らを殺し、手足を切り離した。そしてヘブロン<sup>1</sup>の池のほとりで木につるした。しかし、イシュ・ボシェテの首は、ヘブロンにあるアブネルの墓に持って行って葬った。

- 悪者を厳しく裁き、重罪を世に知らしめたダビデ。一方、イシュ・ボシェテは手厚く葬った。



ヘブロン近郊

## II. エルサレム陥落

サムエル記II 5章



## 【イスラエルの王】 II サムエル5:1~3

イスラエルの全部族は、ヘブロンのだビデのもとに来てこう言った。「ご覧ください。私たちはあなたの骨肉です。これまで、サウルが私たちの王であったときでさえ、イスラエルを動かしていたのはあなたでした。【主】はあなたに言われました。『あなたがわたしの民イスラエルを牧し、あなたがイスラエルの君主となる』と。」

イスラエルの全長老はヘブロンのだビデのもとに来た。だビデ王はヘブロンで、【主】の御前に彼らと契約を結び、彼らはだビデに油を注いでイスラエルの王とした。





ヘブロン近郊

## 【ダビデの治世のまとめ】 II サムエル5:4~5

ダビデは三十歳で王となり、四十年間、王であった。  
ヘブロンで七年六か月ユダを治め、エルサレムで三十三年  
イスラエルとユダの全体を治めた。



## 【エブス人との戦い】 II サムエル5:6~7

王とその部下は、**エルサレム\***に、その地の住民エブス人のところに行った。すると彼らはダビデに言った。「おまえは、ここに攻めて来ることなどできない。目の見えない者どもや足の萎えた者どもでさえも、おまえを追い出せる。」彼らは「ダビデがここに攻めて来ることはできない」と考えていたのである。

しかし、ダビデはシオンの要害を攻め取った。これがダビデの町である。

\*11部族とユダ部族の境。三方が谷の天然の要害。

➡イスラエルの新たな都とすべく、勝ち取った。



## 【ダビデの戦略・民の恐れ】 Ⅱサムエル5:8

その日ダビデは、「だれでもエブス人を討とうとする者は、**水汲みの地下道\***を通して、ダビデの心が憎む『足の萎えた者どもや目の見えない者ども』を討て」と言った。それで、「**目の見えない者や足の萎えた者は王宮に入ってはならない\***」と言われるようになった。

＊城壁内から谷沿いのギホンの泉にいたる地下道

➔エルサレムの防衛上の弱点を突いたダビデ。

＊拡大解釈。イスラエルの民の王への恐れの表れ。



## 【ダビデの町】 II サムエル5:9～10

ダビデはこの要害に住み、これを「ダビデの町」と呼んだ。ダビデはその周りに城壁を、ミロから一周するまで築いた。ダビデはますます大いなる者となり、万軍の神、【主】が彼とともにおられた。



## 【ツロの王ヒラム】 II サムエル5:11～12

ツロの王ヒラム\*は、ダビデのもとに使者と、杉材、木工、石工を送った。彼らはダビデのために王宮を建てた。ダビデは、【主】が自分をイスラエルの王として堅く立て、主の民イスラエルのために、自分の王国を高めてくださったことを知った。

\*ソロモンの時代には神殿計画に全面協力。

➡後の時代の異邦人の信者の型と言える人物。



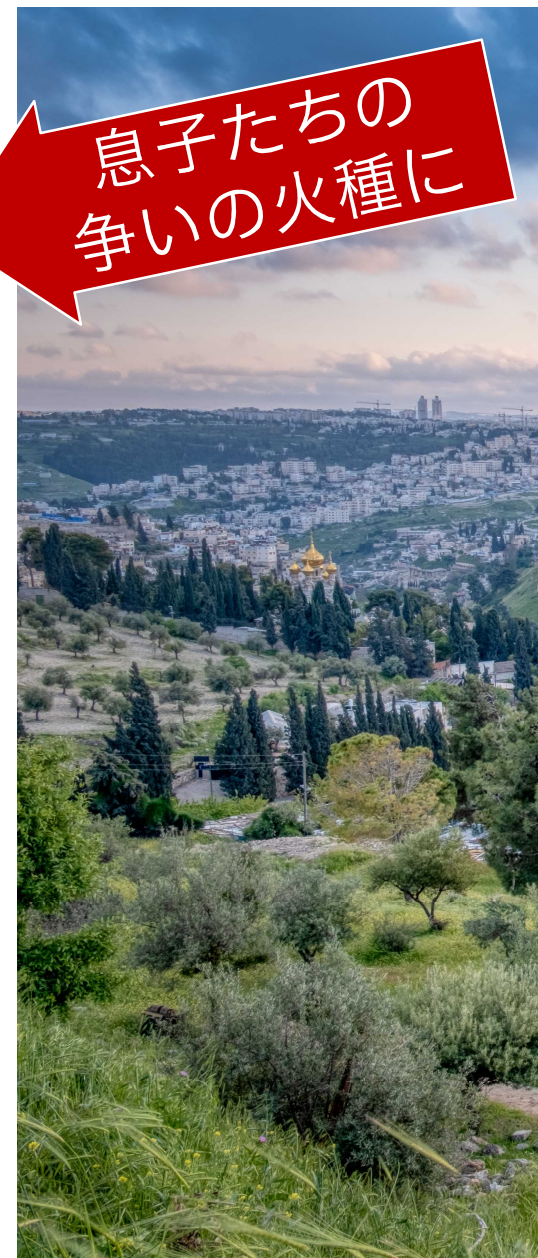
## 【ダビデの子ら・まとめ】 II サムエル5:13~16

ダビデは、ヘブロンから来た後、エルサレムで、さらに側女たちと妻たちを迎えた\*。ダビデにはさらに息子たち、娘たちが生まれた。

エルサレムで彼に生まれた子の名は次のとおり。  
シャムア、ショバブ、ナタン、**ソロモン**、イブハル、エリシュア、ネフェグ、ヤフィア、エリシャマ、エルヤダ、エリフェレテ。

\*申命記17:17 「また王は、自分のために多くの妻を持って、心がそれることがあってはならない。自分のために銀や金を過剰に持ってはならない。」

息子たちの  
争いの火種に



## 【ペリシテの侵略】 II サムエル5:17~18

ペリシテ人は、ダビデが油注がれてイスラエルの王となったことを聞いた。ペリシテ人はみな、ダビデを狙って攻め上って来た。ダビデはそれを聞き、要害に下って行った。一方、ペリシテ人はやって来て、レファイムの谷間を侵略した。



## 【ペリシテへの勝利】 II サムエル5:19~21

ダビデは【主】に伺った。「ペリシテ人のところに攻め上るべきでしょうか。彼らを私の手に渡してくださるでしょうか。」【主】はダビデに言われた。「攻め上れ。わたしは必ず、ペリシテ人をあなたの手に渡すから。」

ダビデはバアル・ペラツィムにやって来た。ダビデはそこで彼らを討って、「【主】は、水が破れ出るように、私の前で私の敵を破られた」と言った。それゆえ、その場所の名はバアル・ペラツィム(バアルが打ち破られた地)と呼ばれた。

彼らはそこに自分たちの偶像を置き去りにした。そこでダビデとその部下はそれらを運び去った。



## 【二度目の侵略】 II サムエル5:22～24

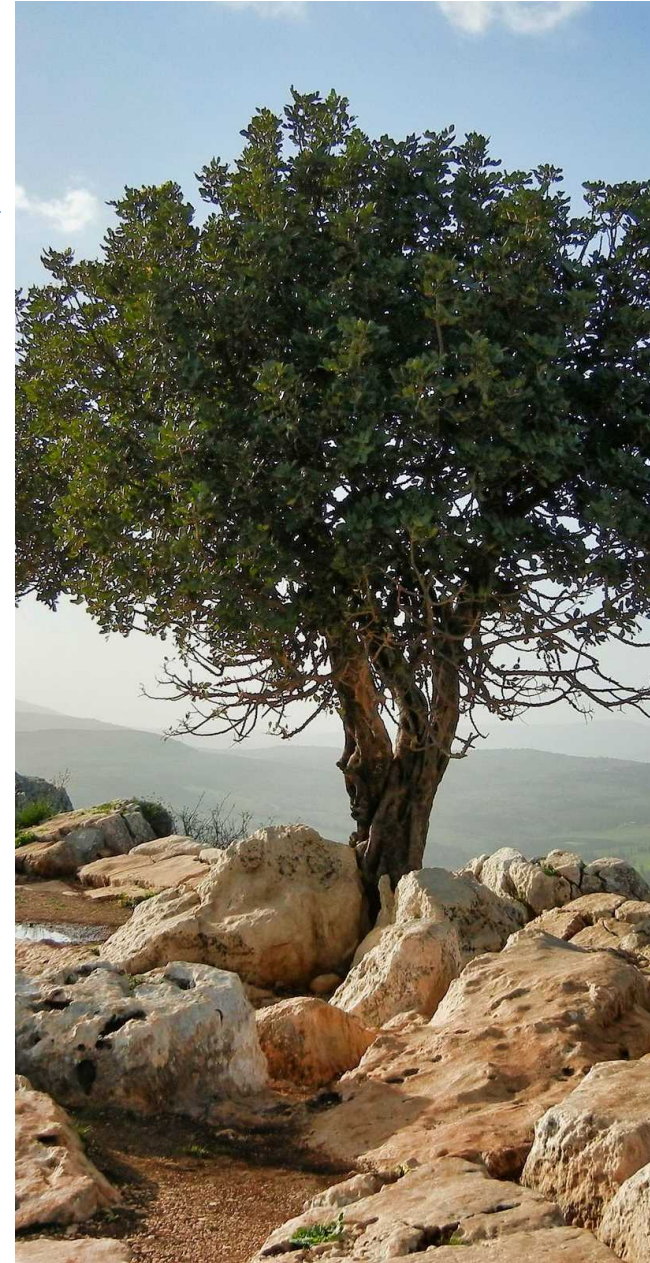
ペリシテ人は、またも攻め上り、レファイムの谷間を侵略した。ダビデが【主】に伺うと、主は言われた。「上って行くな。彼らのうしろに回り込み、バルサム樹の茂みの前から彼らに向かえ。

**バルサム樹の茂みの上**で行進の音が聞こえたら\*、そのとき、あなたは攻め上れ。」

※**頭の上**で行進の音が聞こえることはない。

これは、天の神の軍隊の行進の音。

➔ 神が先立って、この戦いを戦ってくださる。





## 【ダビデの勝利】 II サムエル5:24～25

「そのとき【主】はすでに、ペリシテ人の陣営を討つために、あなたより先に出ているからだ。」ダビデは【主】が彼に命じられたとおりにし、ゲバからゲゼルに至るまでのペリシテ人を討った。



サウル王治世の最初期以来のペリシテへの勝利



### Ⅲ. エルサレムに上るダビデ

サムエル記Ⅱ 6章

## 【契約の箱】 II サムエル6:1～2

ダビデは再びイスラエルの精鋭三万をことごとく集めた。ダビデはユダのバアラ\*から神の箱を運び上げようとして、自分とともにいたすべての兵と一緒に出かけた。神の箱は、ケルビムの上に座しておられる万軍の【主】の名でその名を呼ばれている。

\*キルヤテ・エアリムのアビナダブの家。

■ エリの時代に一度強奪。契約の箱は、80年間、アビナダブの家に安置。(BC1050～980頃)



## 【荷車に載せて】 II サムエル6:3～5

彼らは、神の箱を新しい荷車\*に載せて、それを丘の上にあるアビナダブの家から移した。アビナダブの子、ウザとアフヨがその新しい荷車を御した。

それを、丘の上にあるアビナダブの家から神の箱とともに移したとき、アフヨは箱の前を歩いていた。

ダビデとイスラエルの全家は、豎琴、琴、タンバリン、カスタネット、シンバルを鳴らし、【主】の前で、すべての杉の木の枝をもって、喜び踊った。

\*レビ人のケハテ族が担ぐべきもの(民4:14～15)

律法の命令が祭司の一族からも忘れられていた。



## 【ウザの死】 II サムエル6:6～8

彼らがナコンの打ち場まで来たとき、ウザは神の箱に手を伸ばして、それをつかんだ。牛がよろめいたからである。

すると、【主】の怒りがウザに向かって燃え上がり、神はその過ちのために、彼をその場で打たれた。彼はそこで、神の箱の傍らで死んだ。

ダビデの心は激した。【主】がウザに対して怒りを発せられたからである。その場所は今日までペレツ・ウザ\* (ウザの違反) と呼ばれている。

\*神に近づくには、神の方法によるしかない。



## 【恐れるダビデ】 IIサムエル6:9～11

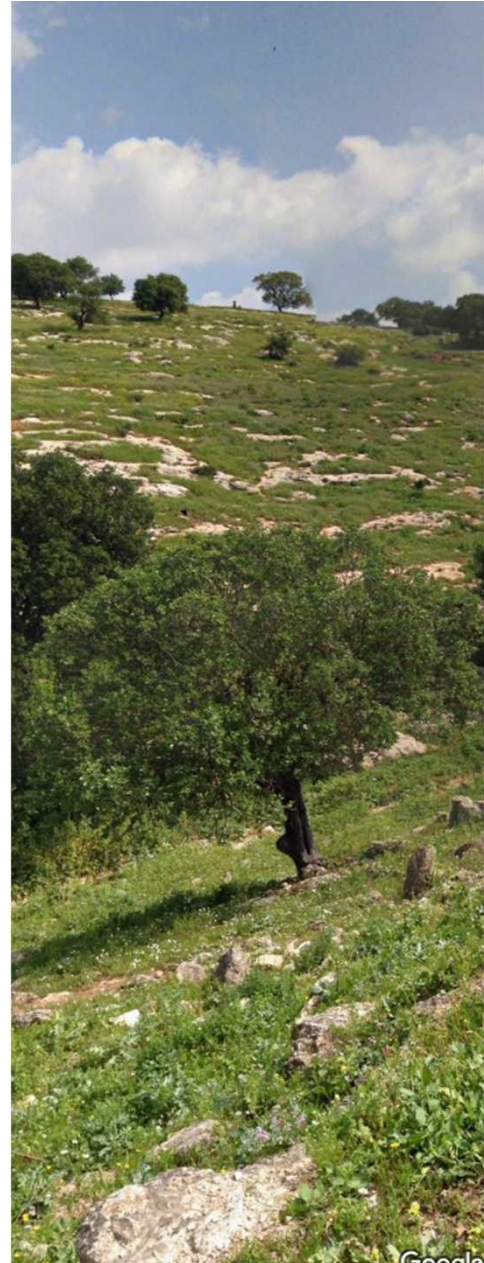
その日、ダビデは【主】を恐れて言った。「どうして、【主】の箱を私のところにお迎えできるだろうか。」

ダビデは【主】の箱を自分のところ、ダビデの町に移したくなかった。そこでダビデは、ガテ人オベデ・エドム(エドムの僕)の家にそれを回した。【主】の箱はガテ人オベデ・エドムの家に三か月とどまった。

【主】はオベデ・エドムと彼の全家を祝福された。

\*ガテは、強奪された箱が置かれていたペリシテの町。  
複雑な生い立ちが？

➔レビ族のケハテ族、コラ出身(歴Ⅰ26:4～8)



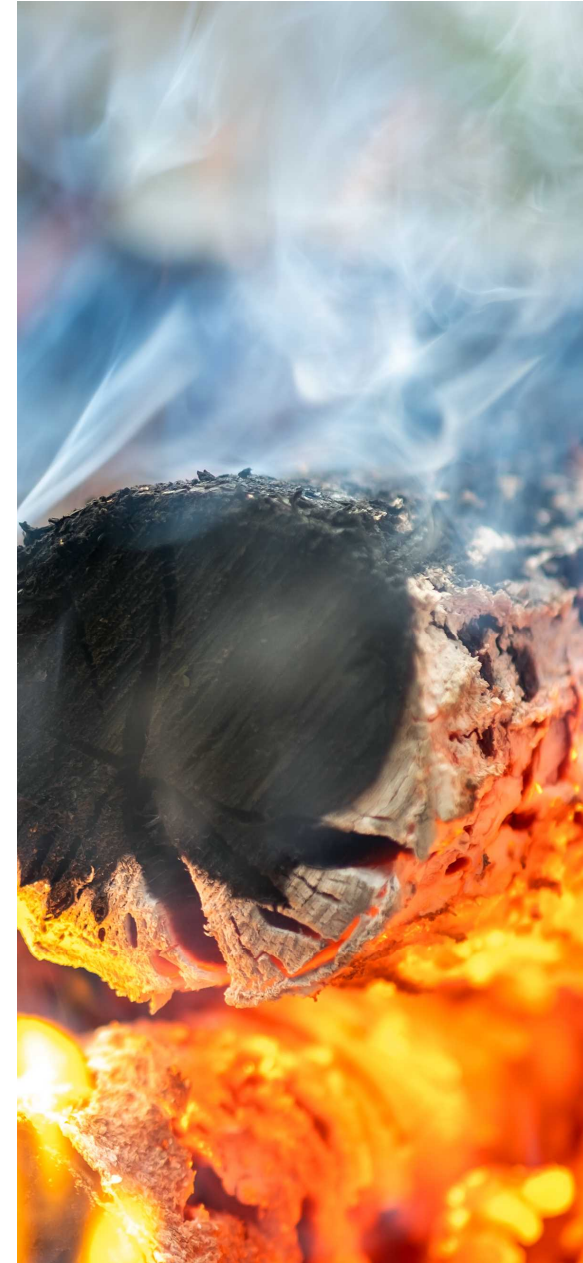
## 【再び都へ】 II サムエル6:12~13

「【主】が神の箱のことで、オベデ・エドムの家\*と彼に属するすべてのものを祝福された」という知らせがダビデ王にあった。ダビデは行って、喜びをもって神の箱をオベデ・エドムの家からダビデの町へ運び上げた。

【主】の箱を担ぐ者たちが六歩進んだとき\*、ダビデは、肥えた牛をいけにえとして献げた。

\*オベデの家は後に神殿の門衛を務め、繁栄した。

\*主に示した最大の敬意。



## 【躍るダビデ】 II サムエル6:14~16

ダビデは、【主】の前で力の限り跳ね回った。  
ダビデは亜麻布のエポデ\*をまとっていた。

ダビデとイスラエルの全家は、歓声をあげ、角  
笛を鳴らして、【主】の箱を運び上げた。

【主】の箱がダビデの町に入ろうとしていたと  
き、サウルの娘ミカルは窓から見下ろしていた。  
彼女はダビデ王が【主】の前で跳ねたり踊っ  
たりしているのを見て、心の中で彼を蔑んだ。

\*一般的な祭司の服。

祭司ではないダビデ。主への従順のしるしか。





## 【幕屋へ】 II サムエル6:17~18

人々は【主】の箱を運び込んで、ダビデがそのために張った天幕の真ん中の定められた場所にそれを置いた。ダビデは【主】の前に、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。

ダビデは全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ終えて、万軍の【主】の御名によって民を祝福した。



## 【民への土産】 II サムエル6:19

そしてすべての民、イスラエルのすべての群衆に、男にも女にも、それぞれ、輪形パン一つ、なつめ椰子の菓子一つ、干しぶどうの菓子一つを分け与えた。民はみな、それぞれ自分の家に帰った。



## 【ミカルの蔑み】 II サムエル6:20

ダビデが自分の家族を祝福しようと戻ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て来て言った。「イスラエルの王は、今日、本当に威厳がございましたね。ごろつきが恥ずかしげもなく裸になるように、今日、あなたは自分の家来の女奴隷の目の前で裸になられて。」

※侮蔑は、他者への優越感、支配欲の現れ。

■王である夫を侮蔑する → 極めて強い支配心  
「裸」は強調。巧妙に心理的優位に立とうと。  
ミカルが権力を手にしたらイゼベルに!!



素直に他者を  
讃えられない  
人は要注意

## 【ダビデの決意】 IIサムエル6:21～23

ダビデはミカルに言った。「あなたの父よりも、その全家よりも、むしろ私を選んで、【主】の民イスラエルの君主に任じられた【主】の前だ。私はその【主】の前で喜び踊るのだ。

私はこれより、もっと卑しめられ、自分の目に卑しくなるだろう。しかし、あなたの言う、その女奴隷たちに敬われるのだ。」


サウルの娘ミカルには、死ぬまで子がなかった\*。

\*以降、ダビデはミカルと関係を持たなかった。



## 【聖書朗読：歴代誌第一16章8～36節】

- 歴代誌は、同じ出来事を**主への礼拝・祭儀、メシア的王国の継承**の視点から記している。
- 主の箱を上げる際、ダビデはレビ人を幕屋の奉仕者に定め、様々な役目に割り振った。
- 礼拝の指揮者アサフにささげさせた**感謝の歌**。
- アブラハム契約を覚え、永遠の約束の神を全身全霊で讃える歌は、メシアの来臨を待ち望む信仰にまで昇華されている。



ダビデとイスラエルは  
悔い改めて  
律法に立ち返った

## Ⅰ 歴代16:8～36

16:8 【主】に感謝し、御名を呼び求めよ。そのみわざを諸国の民の間に知らせよ。

16:9 主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざを語れ。

16:10 主の聖なる御名を誇りとせよ。【主】を慕い求める者たちの心よ、喜べ。

16:11 【主】とその御力を尋ね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ。

16:12 主が行われた奇しいみわざを思い起こせ。その奇跡と御口のさばきを。

16:13 主のしもベイスラエルの裔よ。主に選ばれた者、ヤコブの子らよ。

16:14 この方こそ、私たちの神、【主】。そのさばきは全地にわたる。

## Ⅰ 歴代16:8～36

16:15 心に留めよ。主の契約をとこしえに。命じられたみことばを、千代までも。

16:16 それは、アブラハムと結んだ契約。イサクへの誓い。

16:17 主はそれをヤコブへの定めとして立てられた。イスラエルへの、永遠の契約として。

16:18 そのとき主は言われた。「わたしは、あなたにカナンの地を与える。あなたがたへのゆずりの地として。」

16:19 そのころ、あなたがたの数は少なく、実にわずかで、そこでは寄留者であった。

16:20 彼らは、国から国へ、一つの王国からほかの民へと渡り歩いた。

16:21 しかし主は、だれにも彼らを虐げさせず、彼らのために王たちを戒められた。

16:22 「わたしの油注がれた者たちに触れるな。わたしの預言者たちに危害を加えるな。」

## I 歴代16:8～36

16:23 全地よ、【主】に歌え。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。

16:24 主の栄光を国々の間で語り告げよ。その奇しいみわざを、あらゆる民の間で。

16:25 【主】は大いなる方、大いに賛美される方。すべての神々にまさって恐れられる方だ。

16:26 まことに、どの民の神々もみな偽りだ。しかし【主】は天をお造りになった。

16:27 威厳と威光は御前にあり、力と喜びは御住まいにある。



## Ⅰ 歴代16:8～36

16:8 【主】に感謝し、御名を呼び求めよ。そのみわざを諸国の民の間に知らせよ。

16:28 もろもろの民の諸族よ、【主】に帰せよ。栄光と力を【主】に帰せよ。

16:29 御名の栄光を【主】に帰せよ。ささげ物を携えて、御前に来たれ。聖なる装いをして、【主】にひれ伏せ。

16:30 全地よ、主の御前におののけ。まことに、世界は堅く据えられ揺るがない。

16:31 天は喜び、地は小躍りせよ。国々の間で言え。「【主】は王である」と。

## Ⅰ 歴代16:8～36

16:32 海とそこに満ちているものは、鳴りとどろけ。野とその中にあるものは、みな喜び躍れ。

16:33 そのとき、森の木々も喜び歌う。【主】の御前で。主は必ず、地をさばくために来られる。

16:34 【主】に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

16:35 言え。「私たちの救いの神よ、私たちをお救いください。国々から私たちを集め、救い出してください。あなたの聖なる御名に感謝し、あなたの誉れを勝ち誇るために。」

16:36 ほむべきかな、イスラエルの神、【主】。とこしえから、とこしえまで。それから、民はみな「アーメン」と言い、【主】をほめたたえた



## IV. まとめと適用 来るべき神の都を覚えよう

## 【エルサレムの歩み】

- 凱旋したアブラハムは、**サレム**の王・祭司メルキゼデグから祝福を受けた。➡メルキゼデグはメシアの型。
- アブラハムが、ひとり子イサクを**モレク**(後の神殿の丘)でささげた。
- ヨシュアの死後、一時的にユダ族が占拠した。
- ダビデがエブス人から討ち取り、**イスラエルの都**と定められた。
- ソロモンによって、**神殿**が建設された。

## 【エルサレムの歩み】

- イスラエルの南北分裂後も、**ユダの都**であり続けた。
- 民の背きの末に、**バビロン捕囚**の際に、破壊された。
- 70年後に再建したが、大国に支配され続けた。  
ローマの支配下で、**メシアが入城**。十字架で死んで復活された。
- 70年にローマによって**陥落**。神殿が破壊されたまま今にいたる。

## 【エルサレムとは？】

■ “エルサレム” = “平和の教え” …民に**神との平和**を教える町。

→ 律法に従うことが、**神との平和**を得る律法時代の大原則。

■ 今の時代、エルサレムは、神の教えを受ける場所ではない。  
教会で教えられる、**キリストの律法**に従うことが求められる。

■ しかし、**再臨されたメシア**が、エルサレムを回復される。

世界の中心エルサレムに、すべての民が教えを求め、上る。

→ 究極は、**新天新地・天のエルサレム**。神の完全な世界。

## 【ダビデが待望し讃えたのは、メシアが治める真のエルサレム】

■ 預言者たちもメシアのエルサレムを待ち望み、予告した。

イザヤ2:3(ミカ4:2) 「多くの民族が来て言う。「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」それは、シオンから**みおしえ**が、エルサレムから**【主】のことば**が出るからだ。」

■ 信者の携挙、大患難時代、イスラエルの民族的回心、メシア再臨。  
そして、エルサレムは、**神の教えの都**として回復される。

**どんな時代にも変わらず求められるのは、御言葉に立つこと!!**

## 【今、私たちに求められていること】

- 神の約束を心に刻もう。再臨の主イエスがエルサレムを回復される。
- **エルサレムの平和のために祈るとは、御言葉を学び、聞き従うこと。**  
今の時代、神との平和は、御言葉によってもたらされる。  
主の約束の御言葉を、聖書のイスラエルの歴史から学んでいこう。
- **エルサレム（神の教え）を体現する者と変えられていこう。**  
神の教えの恵みが、喜びをもって人々に伝えられるように。  
迫った時を覚えつつ、主の使命に生きて、日々を刻んでいこう。

霊的エルサレム・主のみ教えから離れず、日々を歩もう。



- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
  - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
  - ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

エルサレムの平和のために祈ります。神のみ教えが、世界の民の中心となりますように。主イエスよ来てください。

その時まで、みことばの恵みを よろこんで証(あか)しし、人々に伝えていきます。

飢(う)え乾(かわ)く魂(たましい)に、命のみ言葉をとどけるため、ここからつかわしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」